



CHAPTER 47

フォールバック ブリッジングの設定

この章では、Catalyst Switch Module 3110 スイッチにフォールバック ブリッジング (VLAN ブリッジング) を設定する方法について説明します。フォールバック ブリッジングを使用すると、スイッチが VLAN ブリッジ ドメインとルーテッド ポート間でルーティングしない、非 IP パケットを転送できます。

この機能を使用するには、IP サービス フィーチャ セットがスイッチまたはスタック マスター上で稼動している必要があります。特に記述がない限り、スイッチという用語はスタンドアロン スイッチとスイッチ スタックを意味しています。



(注)

この章で使用するコマンドの構文および使用方法の詳細については、『Cisco IOS Bridging and IBM Networking Command Reference, Volume 1 of 2, Release 12.2』を参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「フォールバック ブリッジングの概要」 (P.47-1)
- 「フォールバック ブリッジングの設定」 (P.47-3)
- 「フォールバック ブリッジングのモニタおよびメンテナンス」 (P.47-11)

フォールバック ブリッジングの概要

ここでは、フォールバック ブリッジングの動作方法について説明します。

- 「フォールバック ブリッジングの概要」 (P.47-1)
- 「フォールバック ブリッジングとスイッチ スタック」 (P.47-3)

フォールバック ブリッジングの概要

フォールバック ブリッジングを使用すると、スイッチは複数の VLAN またはルーテッド ポート (特に 1 つのブリッジ ドメイン内で複数の VLAN に接続されている VLAN またはルーテッド ポート) をまとめてブリッジングできます。フォールバック ブリッジングを行うと、スイッチでルーティングされないトラフィックや DECnet など、ルーティングできないプロトコルに属するトラフィックが転送されます。

VLAN ブリッジ ドメインは、Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) によって表されます。(VLAN が関連付けられていない) 一連の SVI およびルーテッド ポートは、ブリッジ グループを形成するように設定 (グループ化) できます。SVI はスイッチ ポートの VLAN を、システム内のルーティング機能またはブリッジング機能へのインターフェイスの 1 つとして表します。1 つの

VLAN に関連付けることができる SVI は 1 つだけです。VLAN 間のルーティング、VLAN 間でルーティングできないプロトコルのフォールバックブリッジ、またはスイッチと IP ホストの接続を実現する場合に限り、VLAN に SVI を設定してください。ルーテッドポートはルータ上のポートと同様に機能する物理ポートですが、ルータには接続されていません。ルーテッドポートは特定の VLAN と関連付けられておらず、VLAN サブインターフェイスをサポートしていませんが、通常のルーテッドポートのように動作します。SVI およびルーテッドポートの詳細については、第 11 章「インターフェイス特性の設定」を参照してください。

ブリッジグループは、スイッチ上のネットワークインターフェイスの内部構造です。ブリッジグループが定義されているスイッチの外側にあるブリッジグループ内では、スイッチングされるトラフィックを識別するためにブリッジグループを使用できません。同じスイッチ上のブリッジグループは、異なるブリッジとして機能します。つまり、スイッチ上の異なるブリッジグループ間で、ブリジッドトラフィックおよび Bridge Protocol Data Unit (BDPU; ブリッジプロトコルデータユニット) は交換されません。

フォールバックブリッジを使用しても、ブリッジされている VLAN のスパニングツリーは縮小できません。各 VLAN には、独自のスパニングツリーインスタンスと、ループを防止するためにブリッジグループの一番上で動作する個別のスパニングツリー (別名 VLAN ブリッジスパニングツリー) があります。

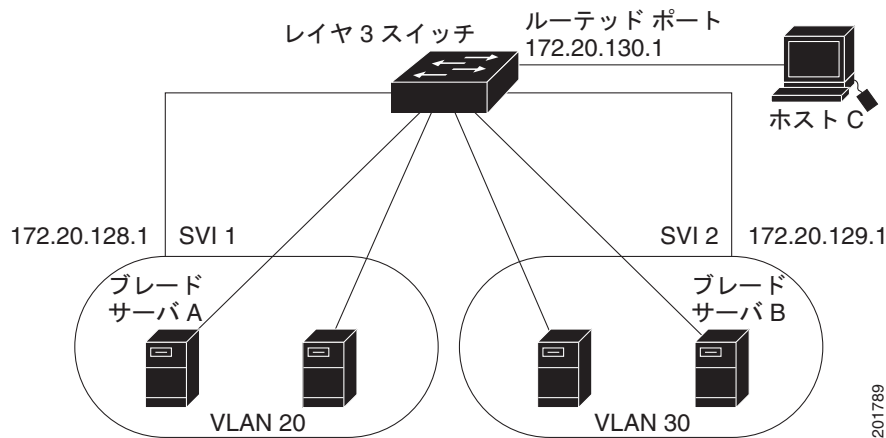
ブリッジグループが作成されると、スイッチは VLAN ブリッジスパニングツリーインスタンスを作成します。スイッチはブリッジグループを実行し、ブリッジグループ内の SVI およびルーテッドポートをスパニングツリーポートとして処理します。

ネットワークインターフェイスをブリッジグループに格納する理由は、次のとおりです。

- ブリッジグループを構成するネットワークインターフェイス間でルーティングされない全トラフィックをブリッジングするため。宛先アドレスがブリッジテーブルに格納されているパケットは、ブリッジグループ内の単一のインターフェイス上で転送されます。宛先アドレスがブリッジテーブル内に格納されていないパケットは、ブリッジグループ内のすべてのインターフェイス上でフラッディングされます。ブリッジグループで送信元 MAC アドレスが取得されるのは、このアドレスが VLAN 上で取得された場合だけです (この逆は成り立ちません)。スタックメンバーで学習されるすべてのアドレスは、スタックのすべてのスイッチで学習されます。
- 接続されている LAN 上で BPDU を受信 (場合によっては送信) することにより、スパニングツリーアルゴリズムに参加するため。設定されたブリッジグループごとに、個別のスパニングツリープロセスが動作します。各ブリッジグループは個別のスパニングツリーインスタンスに参加します。ブリッジグループは、メンバーインターフェイスだけが受信する BPDU に基づいて、スパニングツリーインスタンスを確立します。VLAN がブリッジグループに属していないポートに着信したブリッジ STP BPDU は、VLAN のすべての転送ポートでフラッディングされます。

図 47-1 に、フォールバックブリッジネットワークの例を示します。このスイッチには、SVI として 2 つのポートが設定されています。これらの SVI は異なる IP アドレスを持ち、2 つの異なる VLAN に接続されています。さらに、もう 1 つのポートが独自の IP アドレスを持つルーテッドポートとして設定されています。これらの 3 つのポートがすべて同じブリッジグループに割り当てられている場合は、これらのポートが異なるネットワークや異なる VLAN にあっても、スイッチに接続されているエンドステーション間で非 IP プロトコルフレームを転送できます。フォールバックブリッジングを機能させるために IP アドレスをルーテッドポートや SVI に割り当てる必要はありません。

図 47-1 フォールバック ブリッジング ネットワークの例



201789

フォールバック ブリッジングとスイッチ スタック

スタック マスターに障害が発生すると、第 7 章「スイッチ スタックの管理」に示されている選択プロセスによって、スタック メンバーが新しいスタック マスターになります。新しいスタック マスターは、フォールバック ブリッジングで使用されるスパニング ツリー ポートを一時的に非転送状態にする新しい VLAN ブリッジ スパニング ツリー インスタンスを作成します。スパニング ツリーの状態が転送状態になるまでの間、一時的にトラフィックが中断します。すべての MAC アドレスは、ブリッジ グループで再学習する必要があります。



(注)

IP サービス フィーチャ セットを実行しているスタック マスターで障害が発生し、新しく選択されたスタック マスターが IP ベース フィーチャ セットを実行している場合、スイッチ スタックのフォールバック ブリッジング機能は失われます。

スタックが統合される場合や、スイッチがスタックに追加される場合は、ブリッジ グループの一部でアクティブになる新しい VLAN が VLAN ブリッジ STP に含まれます。

スタック メンバーで障害が発生すると、このメンバーから学習したアドレスは、ブリッジ グループ MAC アドレス テーブルから削除されます。

スイッチ スタックの詳細については、第 7 章「スイッチ スタックの管理」を参照してください。

フォールバック ブリッジングの設定

ここでは、次の設定情報について説明します。

- 「フォールバック ブリッジングのデフォルト設定」 (P.47-4)
- 「フォールバック ブリッジング設定時の注意事項」 (P.47-4)
- 「ブリッジ グループの作成」 (P.47-4) (必須)
- 「スパニング ツリー パラメータの調整」 (P.47-6) (任意)

フォールバック ブリッジングのデフォルト設定

表 47-1 に、フォールバック ブリッジングのデフォルト設定を示します。

表 47-1 フォールバック ブリッジングのデフォルト設定

機能	デフォルト設定
ブリッジ グループ	未定義であるか、またはポートに割り当てられていません。VLAN ブリッジ STP は定義されていません。
動的に学習されたステーションに対するスイッチからのフレーム転送	イネーブル。
スパニング ツリー パラメータ	
<ul style="list-style-type: none"> • スイッチ プライオリティ • ポート プライオリティ • ポート パス コスト 	<ul style="list-style-type: none"> • 32768。 • 128。 • 10 Mb/s : 100。 100 Mb/s : 19。 1000 Mb/s : 4。
<ul style="list-style-type: none"> • hello BPDU インターバル • 転送遅延インターバル • 最大アイドル時間 	<ul style="list-style-type: none"> • 2 秒。 • 20 秒。 • 30 秒。

フォールバック ブリッジング設定時の注意事項

スイッチには、最大 32 のブリッジ グループを設定できます。

1 つのインターフェイス (SVI またはルーテッド ポート) が所属できるブリッジ グループは 1 つだけです。

スイッチに接続されている個別のブリッジド ネットワーク (トポロジの上で区別されるネットワーク) ごとに、1 つのブリッジ グループを使用してください。

フォールバック ブリッジングをプライベート VLAN が設定されたスイッチに設定しないでください。

IP (バージョン 4 とバージョン 6)、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル)、Reverse ARP (RARP)、LOOPBACK、およびフレーム リレー ARP を除くすべてのプロトコルは、フォールバック ブリッジングされます。

ブリッジ グループの作成

一連の SVI またはルーテッド ポートにフォールバック ブリッジングを設定する場合は、これらのインターフェイスをブリッジ グループに割り当てる必要があります。同じグループ内のすべてのインターフェイスは、同じブリッジドメインに属します。各 SVI またはルーテッド ポートは、1 つのブリッジグループだけに割り当てることができます。



(注)

保護ポート機能をフォールバック ブリッジングと併用できません。フォールバック ブリッジングがイネーブルである場合、スイッチ上の 1 つの保護ポートから、別の VLAN 内にある同じスイッチ上の別の保護ポートにパケットが転送される可能性があります。

ブリッジグループを作成し、そこにインターフェイスを割り当てるには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は必須です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>bridge bridge-group protocol vlan-bridge</code>	ブリッジグループ番号を割り当て、ブリッジグループで実行する VLAN ブリッジ スパニング ツリー プロトコルを指定します。 ibm および dec キーワードはサポートされていません。 <i>bridge-group</i> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。最大 32 のブリッジグループを作成できます。 フレームは同じグループ内のインターフェイス間だけでブリッジングされます。
ステップ 3	<code>interface interface-id</code>	ブリッジグループを割り当てるインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 次のインターフェイスのいずれかを指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ルータードポート : no switchport インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力して、レイヤ 3 ポートとして設定された物理ポートです。 SVI : interface vlan vlan-id グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して作成された VLAN インターフェイスです。 (注) ルータードポートや SVI に IP アドレスを割り当てることができますが、これは必須ではありません。
ステップ 4	<code>bridge-group bridge-group</code>	ステップ 2 で作成したブリッジグループにインターフェイスを割り当てます。 デフォルトでは、インターフェイスはどのブリッジグループにも割り当てられていません。インターフェイスは 1 つのブリッジグループだけに割り当てることができます。
ステップ 5	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

ブリッジグループを削除するには、**no bridge bridge-group** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。**no bridge bridge-group** コマンドを使用すると、該当するブリッジグループからすべての SVI およびルートポートが自動的に削除されます。ブリッジグループからインターフェイスを削除したり、ブリッジグループを削除したりするには、**no bridge-group bridge-group** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 を作成してこのブリッジグループ内で実行する VLAN ブリッジ STP を指定し、ポートをルータードポートとして定義して、ブリッジグループにポートを割り当てる例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 protocol vlan-bridge
Switch(config)# interface gigabitethernet3/0/1
Switch(config-if)# no switchport
Switch(config-if)# no shutdown
Switch(config-if)# bridge-group 10
```

次に、ブリッジグループ 10 を作成して、このブリッジグループで実行する VLAN ブリッジ STP を指定する例を示します。VLAN 2 の SVI を定義し、ブリッジグループに割り当てます。

```
Switch(config)# bridge 10 protocol vlan-bridge
Switch(config)# vlan 2
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# interface vlan2
Switch(config-if)# bridge-group 10
Switch(config-if)# exit
```

スパニング ツリー パラメータの調整

特定のスパニング ツリー パラメータのデフォルト値が不適切な場合は、このパラメータを調整する必要があります。スパニング ツリー全体に影響するパラメータを設定する場合は、さまざまなタイプの **bridge** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイス固有のパラメータを設定する場合は、さまざまなタイプの **bridge-group** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

スパニング ツリー パラメータを調整するには、次に示す作業のいずれかを実行します。

- 「VLAN ブリッジ スパニング ツリー プライオリティの変更」(P.47-6) (任意)
- 「インターフェイス プライオリティの変更」(P.47-7) (任意)
- 「パス コストの割り当て」(P.47-8) (任意)
- 「BPDU インターバルの調整」(P.47-8) (任意)
- 「インターフェイスでのスパニング ツリーのディセーブル化」(P.47-10) (任意)



(注)

スパニング ツリー パラメータの調整は、スイッチおよび STP の機能に精通しているネットワーク管理者だけが行ってください。計画が不十分なまま調整を行うと、パフォーマンスの低下を招くことがあります。スイッチングに関する資料としては、IEEE 802.1D 仕様が適しています。詳細については、『Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference』の付録「References and Recommended Reading」を参照してください。

VLAN ブリッジ スパニング ツリー プライオリティの変更

ルートスイッチの候補として別のスイッチと同等のレベルにあるスイッチには、VLAN ブリッジ スパニング ツリー プライオリティをグローバルに設定できます。このスイッチがルート スイッチとして選択される可能性を設定することもできます。

スイッチ プライオリティを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を行います。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	bridge bridge-group priority number	スイッチの VLAN ブリッジ スパニング ツリー プライオリティを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>bridge-group</i> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • <i>number</i> には、0 ~ 65535 の番号を入力します。デフォルト値は 32768 です。番号が小さいほど、スイッチがルートとして選択される可能性が高くなります。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show running-config	設定を確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge bridge-group priority** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。ポートのプライオリティを変更するには、**bridge-group priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します (次のセクションを参照)。

次に、ブリッジ グループ 10 のスイッチ プライオリティを 100 に設定する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 priority 100
```

インターフェイス プライオリティの変更

ポートのプライオリティを変更できます。2 つのスイッチがルート スwitch の候補として同等のレベルにある場合は、レベルに差が付くようにポート プライオリティを設定します。インターフェイスのプライオリティ値が低いスイッチが選択されます。

インターフェイス プライオリティを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface interface-id	プライオリティを設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	bridge-group bridge-group priority number	ポート プライオリティを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>bridge-group</i> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • <i>number</i> には、4 の倍数で 0 ~ 255 の番号を入力します。番号が小さいほど、スイッチのポートがルートとして選択される可能性が高くなります。デフォルト値は 128 です。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config	設定を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge-group bridge-group priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 内のポートのプライオリティを 20 に変更する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# bridge-group 10 priority 20
```

パスコストの割り当て

各ポートにはパスコストが割り当てられています。規定では、パスコストは 1000/（接続された LAN のデータ速度）の値を Mb/s 単位で表したものです。

パスコストを割り当てるには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	パスコストを設定するポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>bridge-group bridge-group path-cost cost</code>	ポートのパスコストを割り当てます。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>bridge-group</code> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • <code>cost</code> には、0 ~ 65535 の数字を入力します。値が大きいくほど、コストが大きくなります。 <ul style="list-style-type: none"> - 10 Mb/s の場合、デフォルトのパスコストは 100 です。 - 100 Mb/s の場合、デフォルトのパスコストは 19 です。 - 1000 Mb/s の場合、デフォルトのパスコストは 4 です。
ステップ 4	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルトのパスコストに戻すには、`no bridge-group bridge-group path-cost` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 内のポートのパスコストを 20 に変更する例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# bridge-group 10 path-cost 20
```

BPDU インターバルの調整

ここでは、BPDU インターバルを調整する手順について説明します。

- 「[hello BPDU インターバルの調整](#)」(P.47-9) (任意)
- 「[転送遅延インターバルの変更](#)」(P.47-9) (任意)
- 「[最大アイドル時間の変更](#)」(P.47-10) (任意)



(注)

スパニングツリーの各スイッチには、個々の設定に関係なく、ルートスイッチの hello BPDU インターバル、転送遅延インターバル、および最大アイドル時間パラメータが採用されています。

hello BPDU インターバルの調整

hello BPDU インターバルを調整するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	bridge bridge-group hello-time seconds	hello BPDU インターバルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>bridge-group</i> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • <i>seconds</i> には、1 ~ 10 の数字を入力します。デフォルトは 2 です。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show running-config	設定を確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge bridge-group hello-time** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジ グループ 10 内の hello インターバルを 5 秒に変更する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 hello-time 5
```

転送遅延インターバルの変更

転送遅延インターバルは、ポートでスイッチングがアクティブになってから実際に転送を開始するまでの時間です。この間にトポロジ変更情報のリスニングが行われます。

転送遅延インターバルを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	bridge bridge-group forward-time seconds	転送遅延インターバルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>bridge-group</i> には、ブリッジ グループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 • <i>seconds</i> には、4 ~ 200 の数字を入力します。デフォルトは 20 です。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show running-config	設定を確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge bridge-group forward-time** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジ グループ 10 内の転送遅延インターバルを 10 秒に変更する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 forward-time 10
```

最大アイドル時間の変更

指定時間内にルートスイッチから BPDU が受信されない場合は、スパニングツリートポロジが再計算されます。

最大アイドル時間（最大エージングタイム）を変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	bridge bridge-group max-age seconds	ルートスイッチから BPDU をヒアリングするために待機する時間を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>bridge-group</i> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。 <i>seconds</i> には、6 ~ 200 の数字を入力します。デフォルトは 30 です。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show running-config	設定を確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、**no bridge bridge-group max-age** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジグループ 10 内の最大アイドル時間を 30 秒に変更する例を示します。

```
Switch(config)# bridge 10 max-age 30
```

インターフェイスでのスパニングツリーのディセーブル化

2 つの任意のスイッチングサブネットワーク間にループのないパスが存在する場合は、一方のスイッチングサブネットワークで生成された BPDU の影響が他方のサブネットワーク内のデバイスに及ばないようにできます（ただし、ネットワーク全体に及ぶスイッチングは可能です）。たとえば、スイッチング LAN サブネットワークが WAN によって分離されている場合は、BPDU の WAN リンク間移動を禁止できます。

ポート上でスパニングツリーをディセーブルするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。この手順は任意です。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface interface-id	ポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	bridge-group bridge-group spanning-disabled	ポート上でスパニングツリーをディセーブルにします。 <i>bridge-group</i> には、ブリッジグループ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show running-config	設定を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

ポート上でスパニング ツリーを再びイネーブルにするには、**no bridge-group *bridge-group* spanning-disabled** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、ブリッジ グループ 10 内のポートのスパニング ツリーをディセーブルにする例を示します。

```
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# bridge group 10 spanning-disabled
```

フォールバック ブリッジングのモニタおよびメンテナンス

ネットワークをモニタしてメンテナンスするには、表 47-2 に記載された特権 EXEC コマンドを 1 つ以上使用します。

表 47-2 フォールバック ブリッジングのモニタリングおよびメンテナンスのためのコマンド

コマンド	目的
clear bridge <i>bridge-group</i>	取得されたエントリを転送データベースから削除します。
show bridge [<i>bridge-group</i>] group	ブリッジ グループの詳細を表示します。
show bridge [<i>bridge-group</i>] [<i>interface-id</i> <i>mac-address</i> verbose]	ブリッジ グループ内で取得された MAC アドレスを表示します。

スタック メンバーのブリッジ グループ MAC アドレス テーブルを表示する場合は、**session *stack-member-number*** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、スタック マスターからスタック メンバーへのセッションを開始します。スタック メンバー プロンプトで、**show bridge [*bridge-group*] [*interface-id* | *mac-address* | **verbose**]** 特権 EXEC コマンドを入力します。

この出力に表示されるフィールドの詳細については、『Cisco IOS Bridging and IBM Networking Command Reference, Volume 1 of 2, Release 12.2』を参照してください。

